

佐賀県研究成果情報（作成 2024 年 2 月）

[情報名] 台木用ナシ品種の播種後および「幸水」接木後の生育

[要約] ニホンナシ台木 Pc6、Pc8、PbN の種子を畝に直播すると発芽した個体の多くは基部径が 7.5mm 以上の接木可能な個体となるが、PbN は生育のバラつきが大きい。「幸水」を接木した場合、どの台木も苗丈 2.0m 程度となり、総根に対する細根の割合に明確な差はないが、細根及び総根の量は PbN がやや多い。

[キーワード] マメナシ No. 6、マメナシ No. 8、ホクシマメナシ、幸水

[担当] 果樹試験場・落葉果樹研究担当

[連絡先] 0952-73-2275・kajushiken@pref.saga.lg.jp

[分類] 技術者参考

[部会名] 果樹

[専門] 栽培

[背景・ねらい]

県内ニホンナシ栽培において、これまで台木として利用されてきたヤマナシに替えて、マメナシ、ホクシマメナシを利用することで樹勢向上、収量増加が期待できる。しかし、これらを利用して安定的に苗を供給するための育成方法は確立されていない。そこで、鳥取大で選抜されたマメナシ (*Pcalleryana* No.6,8, 以下 Pc6、Pc8) およびホクシマメナシ (*Pbetulaefolia* N, 以下 PbN) の生育特性及びこの台木に本県の主力品種である「幸水」を接木した場合の苗の生育の違いについて明らかにする。

[成果の内容]

1. Pc6、Pc8、PbN の種子を畝に直播した場合、発芽した個体の多くは接木可能な太さ（地表面から 2cm の位置の径 7.5mm 以上）となるが、最適な太さ（径 7.5 mm 以上 12.5 mm 未満）の割合は Pc6、Pc8 に比べて PbN の方が少なく、全体的にやや太く、生育のバラつきが大きい（図 1）。
2. 接木可能な太さの台木に「幸水」を接木した場合、どの台木品種においても出荷時の苗丈は 2.0m 以上となる（表 1）。
3. 接木苗の根は、径 5.0mm 未満の細根割合が年次により台木間の多少に違いはあるものの、どの台木も概ね 20～25% 程度で明確な差はみられない。また、細根量及び総根量は PbN がやや多い（表 2）。
4. Pc6、Pc8 の根は垂直方向に、PbN は水平方向に伸長する（図 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験は、場内及び田主丸の苗木業者圃場において、2～3 月頃に幅 60cm、高さ 25cm 程度の畝に台木種子を直播し、成長した台木を 12 月頃に掘り上げて移植、翌年 2～3 月に「幸水」を接ぎ木し調査を行った。
2. Pc6、Pc8、PbN の種子は乾燥条件下では発芽率が低下する。種子の採取後は冷蔵保存し、播種前に水に漬ける等行い、しっかりと吸湿させる。播種後は土壌を乾かさないように十分にかん水を行う。なお、生育期間中の台木の植栽密度の目安は、Pc6 で 20 本/m、Pc8 及び PbN で 10 本/m 程度である。
3. 定植後の各台木の特徴については現在検証中である。なお、これまでに「幸水」において、従来のヤマナシ台に比べ、マメナシ及びホクシマメナシ台の方が樹冠拡大が早く、初期収量が多いが、糖度がやや低くなることを報告している。

[具体的なデータ]

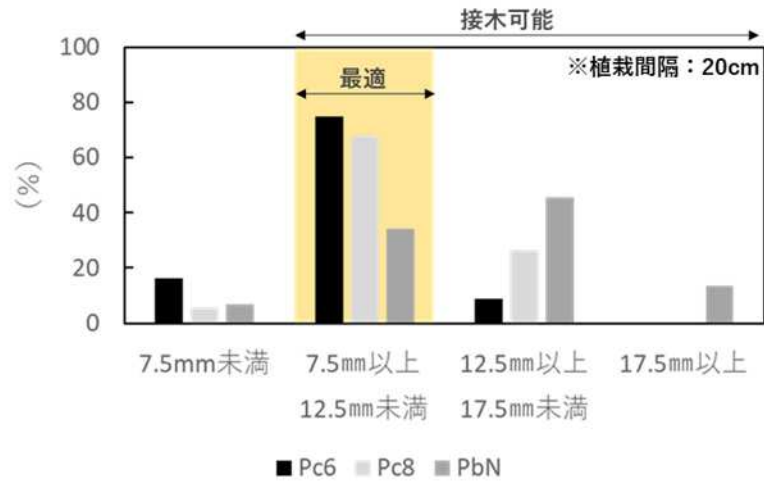


図1 台木品種ごとの基部径の違い(2019, 2020)

表1 台木品種による「幸水」苗の生育の違い(2020-2021)

台木品種	2020年 調査圃場	2021年 場内	2021年 田主丸
Pc6	210.8 a ^(z)	209.8 a	-
Pc8	215.9 a	226.0 a	248.2
PbN	245.9 b	245.8 a	234.4
有意差	*	n.s.	n.s. ^(y)

z) Tukeyの多重検定により異英字間に5%水準で有意差あり

y) *はt検定により5%水準で有意差あり

表2 台木品種による「幸水」苗の発根量の違い(2020-2021)

調査年	台木品種	乾物重 (g)	
		5mm未満	総根量 ^(x)
2020 (場内)	Pc6	13.1 b ^(z) (23.6%)	55.6 a
	Pc8	17.1 b (31.8%)	53.7 a
	PbN	35.3 a (24.1%)	146.4 b
有意差		*	*
2021 (場内)	Pc6	11.3 a (17.1%)	66.2 a
	Pc8	14.2 a (16.6%)	85.8 a
	PbN	19.2 a (22.3%)	86.0 a
有意差		n.s.	n.s.
2021 (田主丸)	Pc8	5.0 (20.2%)	24.8
	PbN	6.0 (15.5%)	38.8
有意差 ^(y)		n.s.	n.s.

z) Tukeyの多重検定により異英字間に5%水準で有意差あり

y) *はt検定により5%水準で有意差あり

x) %は総根量に占める5mm以下の細根の割合



※左から Pc6、Pc8、PbN

図2 台木ごとの「幸水」苗の発根状況(2020)

[その他]

研究課題名: 佐賀県に適したニホンナシ苗木生産システムの構築をめざした優良苗育成技術の開発

予算区分: 県単

研究期間: 2018年~2022年

研究担当者: 加藤恵、児玉龍彦